

2015年1月26日 全3頁

ギリシャ選挙の勝者は緊縮財政反対の SYRIZA

「現実路線」に転換できるか、できないか

経済調査部
シニアエコノミスト 山崎 加津子

[要約]

- 1月25日のギリシャ総選挙では、最大野党の SYRIZA（急進左派連合）が予想以上の大差をつけて第1党に躍進した。ギリシャ内務省の速報によれば、開票率 99.8%で SYRIZA の得票率は 36.3%となり、300議席中 149議席を獲得する見込みである。一方、与党だった ND（新民主主義党）の得票率は 27.8%と伸び悩み、獲得議席は 76議席にとどまる。SYRIZA は緊縮財政政策の放棄や社会的弱者への財政支援を約束することで、5年にわたる緊縮財政政策に疲れたギリシャ国民の支持を得た。
- 次期ギリシャ政権は SYRIZA が中心となって組閣される見通しである。得票率 3%以上という基準をクリアした政党のうち、同じく緊縮財政政策反対を表明している中道左派の Potami（川）、あるいは右派の独立ギリシャとの連立の可能性が高いのではないかとみられている。
- SYRIZA 政権にとって最初の課題は、選挙戦で約束した財政緊縮政策からの決別を具体的にどのように実現させるかとなる。同党の Tsipras 党首は EU/IMF とギリシャの債務削減計画について再交渉すると公約したが、EU/IMF 側はギリシャが財政健全化に取り組むことが財政支援の前提条件であるとしている。また、ECB が先週発表した国債買取プログラムでも、ギリシャの国債がその対象になるには財政緊縮策の継続が条件となる。ギリシャの新政権も EU もどちらも交渉決裂は望んでおらず、SYRIZA は選挙公約に比べ「現実路線」に転じると予想されるものの、どこで折り合うかに関する話し合いは紆余曲折を経て、長引くことになりそう。

SYRIZA が予想以上の大差で第1党に

1月25日のギリシャ議会（総数 300議席）選挙では、最大野党の SYRIZA（急進左派連合）が第1党に選出された。ギリシャ内務省の速報によると、開票率 99.8%時点で SYRIZA の得票率は 36.3%となり、300議席中 149議席を獲得する見込みである（安定政権を形成する目的で第1党となった政党には 50議席が上乘せされるルールになっている）。一方、サマラス首相率いる与党第1党の ND（新民主主義党）の得票率は 27.8%と予想外に伸び悩み、獲得議席は 76議席に

とどまる見通しである。また、同じく与党だった PASOK（全ギリシャ社会主義運動）の得票率は 4.7%と前回の 2012 年 6 月の総選挙の 12.3%から急落した。

この結果、SYRIZA が中心となった連立政権が誕生すると予想される。総選挙終了を受けて、ギリシャ大統領が第 1 党となった SYRIZA の Tsipras 党首に組閣を命じ、同党が中心となって連立を模索することになる（連立交渉の期限は 3 日）。得票率 3%以上という基準をクリアした政党のうち、同じく財政緊縮政策反対を表明している中道左派の Potami（川）、あるいは右派の独立ギリシャとの連立の可能性が高いのではないかとみられている。

図表 1 ギリシャ総選挙結果（開票率 99.8%時点）

政党名	ポジション	2015年1月		前回(2012年6月)	
		得票率(%)	獲得議席	得票率(%)	獲得議席
急進左派連合(SYRIZA)	左派	36.34	149	26.89	71
新民主主義党(ND)	中道右派	27.81	76	29.66	129
黄金の夜明け(XA)	極右	6.28	17	6.92	18
川(Potami)	中道左派	6.04	17	-	-
ギリシャ共産党(KKE)	極左	5.47	15	4.50	12
独立ギリシャ	右派	4.75	13	7.50	20
全ギリシャ社会主義運動(PASOK)	中道左派	4.68	13	12.28	33
その他		8.63		12.25	17
計		100.00	300	100.00	300

(注 1) 第 1 党となった政党には 50 議席が上乗せされる。

(注 2) 各党は得票率が 3%を超えないと議席を獲得できない。

(出所) ギリシャ内務省資料から大和総研作成

SYRIZA 勝利の要因は緊縮財政政策への反発と、古い政治への不満

第 1 党となった SYRIZA は、2009 年の総選挙では得票率 4.6%の小党であったが、2012 年の総選挙では得票率 26.9%と躍進し、今回は第 1 党に躍り出た。急速に支持を伸ばしてきた背景には、ギリシャが財政危機に陥り、EU と IMF の財政支援と引き換えに厳しい財政緊縮政策を遂行し、その結果、ギリシャ経済が長期停滞に陥ったことがある。失業率は 28.0%まで急上昇したあと高止まりしており、昨年 11 月時点で 25.8%である。2014 年に入ってギリシャ経済は久々のプラス成長に転じたが、国民がそれを実感できる段階には程遠い。

この中で SYRIZA は「押し付けられた」緊縮財政政策の撤回を掲げ、年金給付水準を金融危機前に戻し、増税を撤回し、リストラされた公務員を復職させること、また最低賃金を引き上げ、低所得者に対して電力料金を無料にすることなどを約束した。また、景気回復を優先させ、GDP 比 6%に相当する公共投資の実現も掲げた。これらの政策を実現しようとするれば、多大な財源が必要となるが、Tsipras 党首はこれを EU と IMF からの 2 度にわたる財政支援（総額 2,400 億ユーロ）の返済計画の再交渉を通じて、ギリシャの財政負担軽減を図ることで実現できるとしている。

ギリシャの国民がこの「バラ色の」政治公約をすべて信じているわけではないと考えられる。とはいえ、これまでの与党の ND と PASOK は長期にわたって 2 大政党としてギリシャの政治を主導してきた 2 党であり、この「古い政治」に対する不満や失望が蓄積される中、弱冠 40 歳という若き党首が率いる SYRIZA は「何かが変わる」という期待を抱かせることに成功したのである。

SYRIZA の課題は理想と現実のギャップを埋めること

予想された以上の大差で勝利した SYRIZA だが、政権樹立のあとは選挙戦で約束してきた「甘い約束」を現実とどうすり合わせて、実際の政策にするかの判断を迫られることになる。今後は EU/IMF からの財政支援は一切不要との決断を下せるならば、これまでの対ギリシャ財政支援の返済をしないといった極端な主張ができるかもしれない。ただし、これはギリシャがユーロ圏、EU にとどまることを不可能にしまいかねない政策である。独自通貨の導入とその大幅切り下げで、輸出と観光の振興を通じた景気回復を実現できるかもしれないが、ギリシャの内需が改めて大きく縮小する、ギリシャの銀行が破綻し、しかも EU の銀行救済基金の支援を得られないなど、リスクの高い選択肢である。

SYRIZA はユーロ圏、EU 内にとどまって、その支援を受けつつ、景気回復を図ることを優先させる方針と見受けられる。このため、選挙公約をすべてそのまま実現させようとするわけではなく、「現実路線」への修正が行われると予想される。また、EU 側もここまで実行してきたギリシャ支援が水泡に帰すことは望んでおらず、加えて、ギリシャのユーロ圏、EU 離脱が万一実現してしまった場合、EU 統合の最初の失敗事例になることでどのような混乱が起きるか不透明であることを懸念している。このように、ギリシャの新政権も EU もどちらも交渉決裂は望んでいない。ただ、SYRIZA は予想以上の高い国民の支持を得たことで、国内的には自らの主張が認められた格好になっている。このことが少なくとも当初は、EU、IMF との交渉に弱腰に臨むことはできないという主張につながる可能性があることは懸念材料である。一方の EU、IMF 側は債務返済期限の延長などは容認可能な譲歩だが、支援してきた各国の財政負担となるところまで踏み込むことができるか疑問である。どこで折り合うかに関する話し合いは紆余曲折を経て、長引くことになろう。